

CONTENTS

はじめに	3
本書の読み方	5

第1章 オスマン帝国の断末魔

序幕	610-1870年 イスラーム史概観	013
第1幕	神の御加護はどこに？ 欧州形勢逆転	021
第2幕	同志よ、団結せよ！ アフガーニーの足跡	029
第3幕	帝国の“紐帯”を求めて スルタン＝カリフ制の利用	037
第4幕	帝の本心 汎イスラーム主義の利用	047
第5幕	憲法さえあれば！ 青年トルコの蠢動	055
第6幕	立憲制の成立 青年トルコ革命の勃発	063
第7幕	狙われる帝国 帝国領のさらなる縮小	071
第8幕	3B政策のはざまに オスマン帝国の地政学的重要性	077
第9幕	亡びの道 独土秘密同盟条約の締結	083

第2章

アリー朝の断末魔

- | | | |
|-----|-----------------------------|-----|
| 第1幕 | 交錯する思惑
スエズ運河開通 | 091 |
| 第2幕 | エジプト人よ、立ち上がれ！
アラビー＝パシャの乱 | 105 |
| 第3幕 | “救世主”の煽動
マフディー教徒の乱 | 111 |

第3章

カージャー朝の断末魔

- | | | |
|-----|------------------------|-----|
| 第1幕 | 革命への起爆剤
タバコ＝ボイコット運動 | 117 |
| 第2幕 | 誇りを取り戻せ！
イラン立憲革命の勃発 | 125 |
| 第3幕 | 熱狂からの戒厳令
第1次立憲制時代 | 131 |
| 第4幕 | 再起のあとの内ゲバ
第2次立憲制時代 | 139 |

第4章

インドの自治運動

- | | | |
|-----|------------------------------|-----|
| 第1幕 | 御為倒しの諮問機関
インド国民会議 ボンベイ大会 | 145 |
| 第2幕 | 混水摸魚
ベンガル分割令 | 155 |
| 第3幕 | イギリスの掌の上で
インド国民会議 カルカッタ大会 | 163 |



第4幕	押さば引け、引かば押せ 第一次世界大戦直前のインド帝国	171
-----	--------------------------------	-----

第5章 オスマン帝国滅亡

第1幕	私は立つ！ オスマン帝国の依違逡巡	177
第2幕	“アラビアのロレンス”とともに フサイン＝マクマホン協定	187
第3幕	修羅地獄の原点 イギリス三枚舌外交	193
第4幕	屈辱の講和条約 セーブル条約	205
第5幕	恨み晴らすべし！ アンカラ新政府の誕生	213
第6幕	オスマン帝国の滅亡 ローザンヌ条約	221
第7幕	突き進むケマル＝パシヤ トルコ共和国の成立（トルコ革命）	227

第6章 エジプト・イランの再生

第1幕	欧州かぶれの操り人形 エジプト完全保護国化	241
第2幕	革命でつかんだ“ニンジン” エジプト形式独立の達成	247
第3幕	国を守るための“みかじめ料” 英ス条約	257

第4幕

コサック旅団の英雄

パフレヴィー朝の誕生

263

第7章

インドの独立運動

第1幕

約束された自治

モンタギュー声明

273

第2幕

反故にされた自治

ローラット治安維持法

283

第3幕

“見せかけ”の自治

モンタギュー＝チェルムスフォード改革

291

最終章

恐慌後のイスラーム

第1幕

自主化と近代化

世界大恐慌後のトルコ・イラン

299

第2幕

“毒入り”の同盟条約

世界大恐慌後のエジプト

307

最終幕

欺瞞に満ちた世界最長憲法

世界大恐慌後のインド

315

Column コラム

神の御加護	036
紐帯とは？	046
政治改革の難しさ	054
親日トルコ人	062
先ず勝ちて後に戦を求む	070
地政学とは？	082
オスマンの断末魔	090
地球が小さくなった！	104
裏切者の末路	186
条約と議定書の違い	204
コンコルド効果	282